

2022年3月期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2022年5月12日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

映像事業

Q：前回2月の決算発表では、営業利益水準の今期見通しについて減益の可能性も示唆していたが、一転して増益計画になった理由を教えてください。

A：中国での物流混乱や上海のロックダウンにより販売が前期から今期に一部繰り延べになることや2月想定時よりも為替が円安に振れていること、引き続き中高級機へのシフトを進めミラーレスカメラ・交換レンズの新製品を中心に販売を拡大し平均販売単価を2割ほど向上させることなどにより、増益を見込むものです。

Q：半導体関連の部品不足による今期の映像事業の見通しへの影響について教えてください。

A：引き続き状況は流動的であり、今期も年間を通じて部品不足による生産制約は一定程度続くとみておりその前提でカメラ及び交換レンズの販売台数は70万台、125万台と前年度並みの計画としています。

精機事業

Q：半導体装置事業の今期の見通しについて教えてください。販売台数は公表値からさらにアップサイドはあるのか？

A：今期の装置受注はほぼ固まってきており、据付が順調に進捗すれば、販売台数は公表している台数見通しから大きく変動しない見込みです。サービス収益に関しては、サービスビジネスは好調に推移するものの、一過性の案件があった前年からは減収となる見込みです。

Q：半導体露光装置とFPD露光装置それぞれについて、来期以降の見通しを教えてください。

A：半導体露光装置は、今後2~3年間、ArF液浸およびArF露光装置共に一定の需要があるとみており、年によって多少の増減があるものの、今期並みの販売台数で堅調に推移すると見込んでいます。主要顧客以外の顧客とのビジネスも拡大しており、複数社からの受注を見込んでいます。

FPD露光装置の販売台数は、今期は端境期となり減少する予定です。中期的には底堅く推移すると見込んでおり、パネルメーカーの投資計画次第では、将来、新規ライン向けに受注の可能性もありうると考えています。

コンポーネント事業

Q： EUV 関連コンポーネントビジネスについて今後の見通しを教えてください。2022 年度に一時減速するという
ということはないのか？

A： EUV 関連コンポーネントについては納入先企業様から受注を頂戴しており、2022 年度も計画通り販売
台数が増加していくものと考えています。また、露光装置の高 NA（開口数）化に伴い、検査機も高 NA
化が必要となっており、これにも対応していく計画です。

以上